

学校設定科目「高山植物」における ESD 教育の実践

北海道礼文高等学校長 齊 藤 雄 大

1 趣旨（本校の ESD の特徴）

礼文町は、北緯 45 度に位置する冷涼な気候であり、固有種であるレブンアツモリソウなどの高山植物が平地にも自生するほか、ウニやホッケなどの海産物にも恵まれている。観光や水産業が町の基幹産業となる礼文町の発展には、持続可能な自然保護が欠かせない。

本校は、平成 23 年度よりユネスコスクールに加盟し、学校設定科目「高山植物」や「水産基礎」の授業などの授業を通して、礼文島の豊かな自然や水産資源について学び、環境教育と豊かな心を育む教育に力を注いでいる。

地域の自然環境や環境保全の問題について、将来にわたって持続可能な社会を築くことと関連づけ、さらに自分たちの未来を形成していくために必要な認識や行動力を育む上で、ESD の理念を軸に教育活動を展開している。

2 活動・全体計画

(1) 実践の観点

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育む。
- ・ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む。

(2) 育みたい力

- ・ 多様な他者・文化との関わりから、柔軟な思考力・多様なものの見方をすることがきる能力
- ・ コミュニケーション能力、情報活用・分析能力と人間関係形成能力
- ・ 地球の現状や未来について関心をもち、地球的課題(環境・経済格差・エネルギー等)を解決しようとする意欲・態度
- ・ 集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度

3 実践事例

本校の ESD 教育において中核を担うのは、1 年生理科の学校設定科目「高山植物」における実践である。次のような学習指導を通して、持続可能な社会の担い手の育成を行っている。

(1) 目標

礼文島に生育する高山植物群を中心とした植物の観察・実験・実習を通し、自然保護に対する関心を持ち、自然と人間との関わりについて体系的な知識を身に付けるとともに、自然保護と観光産業の発展を両立する方法を考察し、自然に対する科学的な見方や考え方から問題解決能力を育成し、礼文島の自然と積極的に関わりながら生きていく力を養う。

(2) 内容

- ア 高山植物の構造と花の種類（植物の基本構造、植物の分類）

イ 礼文島の自然環境（礼文島の成り立ち、礼文島の地形）

ウ 礼文島の高山植物の保全（国立公園の目的と意義、自然保護活動、自然の保護と利用の在り方）

(3) 学習計画

- ・4月～6月 オリエンテーション、野外学習（湿原の特徴、周氷河地形と風衝木の観察、植物の基本構造、花壇での定期観察、外来種駆除）ほか
- ・7月～9月 礼文島の成り立ち、礼文島の地形、野外実習（7月、8月、9月の花の観察）
- ・10月～12月 礼文島の高山植物の保全、校内実習（アツモリソウの培養実験）
- ・1月～3月 自然利用の在り方、観光パンフレットの作成、校外実習（雪の保温効果）

4 成果と課題

この実践を通して、生徒たちは、地域の環境保全や生物多様性についての理解を深め、自らが地域の自然環境の保全にいかにかに努め、行動していくか等考えを深めることができた。

また、課題としては、この学習の成果について継続して活用できるようなカリキュラムの開発が課題となっている。



(野外実習の様子)